保　健　体　育

第1節　概　　要

保健体育課においては、県教育委員会が昭和50年度の重点施策として掲げた「体格・体力の向上とスポーツの振興」を目指し、保健、体育、給食の分野で緊密な連携をとりながら施策の推進を図った。その概要は、次のとおりである。

1　学校体育の充実

体育の授業における指導力を高め、児童・生徒の体力向上を図るため、各種体育実技講習会を開催するとともに、体育研究学校による実践研究、学校訪問による指導、体育研究大会等を開催し、学校体育指導者の資質向上を図った。また、体育担当以外の教員を対象に体育クラブ指導講習会を開催し指導力の向上に努めるなど、学習指導要領の充実した展開を図るための諸事業を行った。

更に、昭和53年度全国高等学校総合体育大会本県開催の内定に伴い、中学校、高等学校の体育授業の充実と相互の連携に努めた。

2　スポーツ選手の競技力向上

各種体育大会における県代表の成績は、国内における本県スポーツの水準を示すものであり、県民の士気にも大きく影響するので、前年に続いて競技力の向上に努めた。

昭和50年度全国高等学校総合体育大会の陸上競技の成績はめざましく、塚原由美子(安達高)が槍投で優勝の外、加藤顕人(安達高)が砲丸投で、石森ユキ子(郡大附)が槍投げでそれぞれ第2位に入賞し、岡部晃子(白女)が100mで、石森ユキ子(郡大附)が、円盤投げでそれぞれ第3位に入賞している。自転車競技の荒木光利(白農)が10,000mポイントレースに優勝し、その外5種目で3位に入賞した。レスリングでは渡辺友幸(田島高)が65kg級で優勝し、1月には日本代表としてアメリカに遠征し優秀な成績を収めて帰国した。スキー競技では相原美知子（猪苗代高）が5キロ競技で第2位に入賞等、高校生の活躍が目立ち、昭和53年度全国総合体育大会に明るい希望が持たれる。更に第31回国体スケート競技で笠原美也子（堀川商事）が 3,000mで優勝を成し万丈の気を吐いた。

3　社会体育の振興

県民の体育・スポーツに対する欲求が高まり、市町村体育協会等関係団体の活躍によって、スポーツが県民の日常生活の中に定着しつつある。(財)県体育協会加盟種目競技団体登録者83,300余名、スポーツ少年団登録者17,000余名、県総合体育大会家庭バレーボール、壮年ソフトボールの県大会出場者 1,846名、スポーツ傷害保険加入者 161,740名等の数字は本県の社会体育の充実を表すものである。

このような県民の盛り上がりの中で、指導の養成、各種スポーツ大会の開催、各種大会に県代表選手の派遣等を行った。オリエンテーリング講習会において67名の指導者が誕生したのをはじめ、各講習会を通じて指導者の資質向上等、初期の目的を達することができた。また、県民のスポーツの祭典である第28回県総合体育大会には、17,979名が参加する盛況を呈し、第2回東北総合体育大会においては、28種目に 987名の選手団を派遣し、馬術、ハンドボール、庭球、クレー射撃の4種目で総合優勝した。

更に、スポーツ少年団においては、西ドイツに団員2名を派遣し、西ドイツからは団長以下20名の団員を本県に迎え、国際交流に努めた。その他の各体育スポーツ関係団体においても、それぞれ年間にわたって充実した活動を展開し、社会体育の振興を図った。

4　体育施設の整備

明治 100年記念事業として計画した県総合運動公園の建設事業として、前年度に引き続き予定地の地質調査（水位観測）と気象調査を実施した。

また基本計画作成業務を3業者に委託し、その資料を基礎として県総合運動公園建設プロジェクトチームによる検討を加え、基本設計を作成した。

南会津野外活動センター内にグランドを建設するため予定地の測量・設計を完了し建設の基礎固めを図った。

市町村の施設としては水泳プール35か所、運動場3か所、学校施設開放施設として3か所が新設された。

5　学校給食の改善充実

本年度の完全給食実施状況は、前年度と比較すると児童・生徒数に対して小学校 0.6%・中学校 2.0%、学校数に対しては小学校 0.8%・中学校 △0.2%とそれぞれ上昇を示し普及が図られた。中学校の普及率は、全国平均を上回っているが、小学校の普及率と比較するとまだ低いので、今後なおいっそう市町村、学校及びＰＴＡ等と連携を密にして、地域の特性に応じた完全給食の実施を推進し、〝学校教育の一環〟としての学校給食が全児童生徒に行われるよう努力する必要がある。

給食費は、1食当たり県平均小学校 123円85銭・中学校 147円93銭で前年度と比較すると約25%の増額となっている。しかし年度内における給食用牛乳または諸物価の高騰が極力抑制されたので、経済的には給食運営が容易であった。

本年度の特記事項は、児童・生徒に必要な栄養確保の見地から「学校給食用小麦粉品質規格規程」の一部が改正され、5月使用小麦粉から「Ｌ―リジン塩酸塩」が添加されることになった。しかし、当該Ｌ―リジンから「３４ベンツ・ピレン」が検出されたことに伴い、その安全性について世論の喚起するところとなった。この結果、文部省は、「Ｌ―リジンの有効性・安全性に疑義はないが、学校給食の円滑な実施を継続するため、当分の間、リジンの使用は都道府県の判断に委ねる。」との見解を示すとともに小麦粉品質規格規程のＬ―リ